



羽毛布団を手作りして 5000 枚 上級睡眠健康指導士のねむりはかせによる 羽毛ふとんの正しい選び方

これで良いのか羽毛業界 間違いだらけの羽毛布団選び

①良い羽毛を使えばいいんです

羽毛の品質は重要ですが、それだけでは不十分です。側生地・キルティング・充填量のバランスが取れなければ、快適に眠ることはできません。最高級素材でも、へたな料理の仕方をすれば台無しです。

②嵩があるほど良い羽毛布団

羽毛原料なら嵩があるほど良い品質になりますが、布団は嵩があれば良いというわけではありません。成人男性で都市部のマンション住まいなら、嵩があまりすぎる羽毛布団は使いにくいでしょう。

③増量なのでお買得です！

逆に言えば増量しないとまともな嵩がでない、質の低い羽毛を使っているということを白状しているようなものです。

④ウォッシュブルなので清潔

この手のほとんどは生地がポリエステル混。通気性が悪いので、洗えるかもしれませんが、蒸れが大きいので、特に汗かきの方には向きません。快眠には通気性がとても重要です。

⑤ポーランドなど東欧産なら良い羽毛

羽毛は農作物です。飼育環境で良いモノもあれば、粗悪なモノもあります。新潟のお米みたいなものですから、産地だけで判断するのはとても危険です。保証書は出荷数量と一致していないので、当てにしていけません。ついでに、産地偽装が多いのも羽毛の特徴です。

⑥ダウン 95%だから良い羽毛

これも怪しい羽毛が多いのです。本当に95%あるネット表示なら良いのですが、甘く測定したものが少なくありません。ついでに、ゲースと表示されていても、ダックがかなり混ざっているケースが少なからずありますので要注意。



あってはいけない産地偽装 あなたは何を信じる？

2016年5月羽毛の産地偽装が新聞報道され、大きな問題となりました。大手のメーカーは平静を装いましたが、この問題は数十年業界の暗部として存在し、なかなか改善されません。

今なお狐と狸のばかしあい

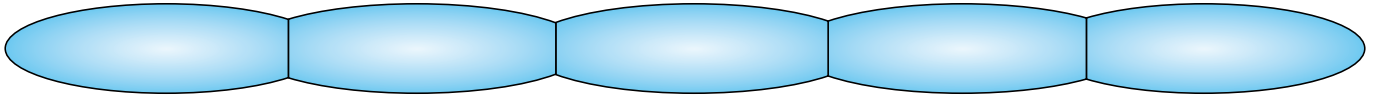
羽毛は高価であるのに、布団にしてしまうと、中身がわかりません。この偽装は慢性的に行われてきました。今なお解決されていないのです。ねむりはかせ(店主)は5月9日TBSの番組「ひるおび」に羽毛の専門家として出演、羽毛偽装のからくりについて説明しました。白羽の矢が立てられたのも、永年自らが羽毛を選定し、自らが作るということを徹底してきたからです。

ひるおび出演中の店主ねむりはかせ
会社の恵さん、江藤さんと



快適な寝床内は温度33℃湿度50% 羽毛布団の快適さは、生地と厚さで決まる

羽毛布団の良し悪しは、羽毛の質だけで語られることがほとんどです。しかし、快適な睡眠環境を得るために重要なのは、側生地の軽さや通気度、寝室の状態や使う人の体質に合わせた最適な厚さを選ぶことです。80代の女性と30代の男性では、必要な厚さは違って当たり前なのです。



軽い生地ほど暖まるのが早い

羽毛用生地は、軽いほど空気の量が増え、体温が素早く羽毛に届くので暖まるのが早く、羽毛本来の良さを発揮することができます。日本の綿100%の羽毛布団用生地はほとんどが110~150g/m²です。ポリエステル混は軽量ですが、通気性が悪く、羽毛の良さを活かせません。

眠りのプロショップの指針

生地は綿100%で、かつ重量100g/m²未満とする
オリジナルS9100生地は85g/m² ドイツ製TE270は69g/m²

通気度が高いほど快適度が増える

最近の市販羽毛布団はほとんどがポリエステル混生地を使っています。これは通気度が低いため(0.7~0.9cc/s)、空気の循環がうまくいきません。これでは、せっかくの羽毛の良さを活かすことができませんし、実際に使うと、蒸れやすくなります。

眠りのプロショップの指針

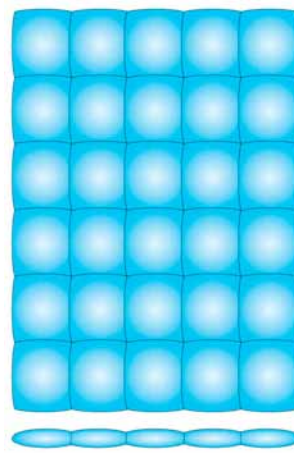
通気度は2.0cc/s以上とする
オリジナルS9100生地は3.5cc/s ドイツ製TE270は6.0cc/s

体質に合わせたキルティングを選ぶ

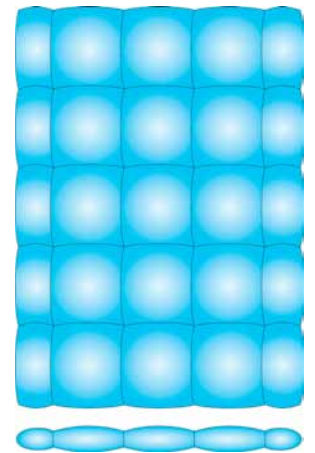
最近の住宅は高气密・高断熱の設計で、冬でも暖かい部屋のものが増えてきました。暖かければそれでいい、ではなく、快適な温度33℃湿度50%を実現するためには、寝室の状態や、使う人の代謝量に合わせて最適な厚みを選ぶことが大切です。生地の軽さと羽毛の質によっても、最適な羽毛の充填量は異なってきます。

眠りのプロショップの指針

寝室・使う人の体質に合わせて最適な厚さを選ぶ
完全立体キルトで羽毛の移動を防ぐ
中央部に縫い目が来ないように設計にする
S9100以上でマチ7cm以上の側は完全立体キルト



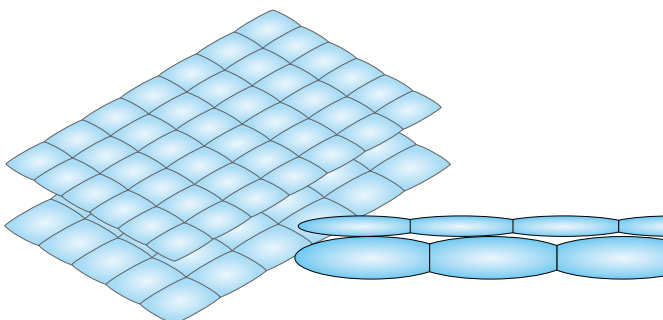
中厚仕上げ 5×6キルト
代謝量の高い子どもや男性向け



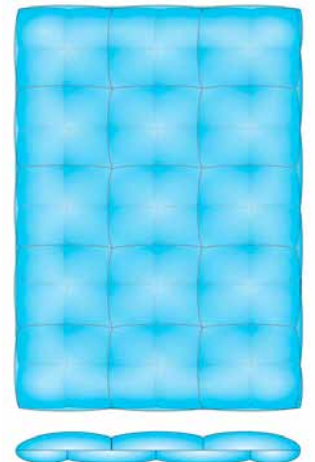
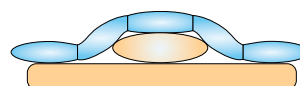
ふつう仕上げ 変形5×5キルト
一般的な厚さ

中厚+肌のセットでオールシーズン対応

一枚で年間使うというのは無理があります。中厚と肌布団を組み合わせることにより、季節に応じて組み合わせて使うことができるので、おすすめです。



中央部に縫い目が来ないようにしているのが、熱の逃げがすくなる。また、身体全体を包み込むようにすることで、保温性がアップする



ふくら仕上げ CON二層キルト
寒がりの方向けの厚手仕上げ

良質な羽毛を選ぶことで 長く使うことができ、ホコリが少なく安心



2017年1月で最も質の良かったポーランド・ポメラニアンの手選別ステッキークース

ドイツ・ハイムテキスタイル見本市カウフマン社のブース

超軟水で徹底洗浄されたグースダウン

河田フェザーは日本で最も質の高い羽毛メーカー。鈴鹿山系の超軟水で何度か徹底して洗浄された羽毛は透視度が1000mm以上（通常は500mm）。もちろん臭いの字もありません。社長さんが非常に真面目なので、安心してお任せできる品質です。

ホコリが少ないのはグースダウン

ダックに比べ良質のグースは、ハンドプラッキングによって羽毛を得ているために、ホコリが少なく、臭いも付きにくい特徴があり、基本的にはグースをおすすめします。

眠りのプロショップの指針

- 最低でも400ダウンパワー（ロイヤルゴールド級）
- 飼育状況の良いグースダウン
- アイダーや手選別ステッキークースが理想

保温性が高く、ホコリが極小の手選別ステッキークースダウン

最毎年1月にドイツの展示会で手に入れるカウフマン社のステッキークースダウン。この羽毛は、最高級クラスのダウンから、さらに手選別によって絡みの強い羽毛だけ選ばれた最高級の羽毛です。年間150~250kgしか得られません。アイダーダウンのように絡みが強いので、暖まった空気を逃がさず保温性に優れています。

また、手選別なので一般の羽毛に比べてホコリが非常に少ないことも大きな特徴です。ステッキークースの場合通気度5cc/s以上の通気性の良い生地を使うことができるので、さらに快適な睡眠環境を生み出します。



羽毛の最高峰

アイスランド・アイダーダウン

極寒の地アイスランドに住むアイダーダウンは体温が高く、別格の保温性を持ったダウンが得られます。毎年5月に卵を孵化するため巣に敷かれたダウンを、卵の孵化後に集めます。年間2000kgしか得られない最高級の羽毛です。

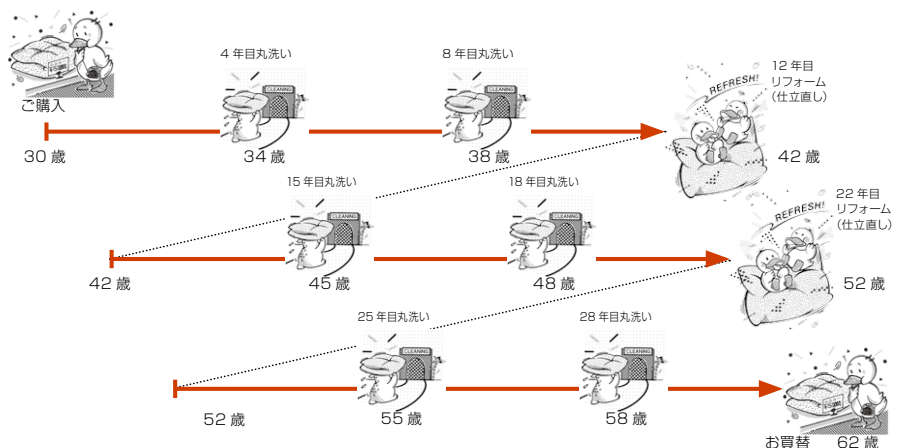
（グレーの羽毛ですが、羽毛は本来色で性能は変わりません。）



羽毛は高耐久品。ライフサイクルを考えて選ぶ

羽毛は長く使うことができます。右図のように、定期的な丸洗いとリフォームを繰り返すことで30年以上使えるのです。大切なことは定期的なメンテナンス。そして長期間の仕様に耐えうる、品質の良い羽毛を選ぶことです。

品質が悪いダウンは使っているうちにゴミが増えてきます。リフォームしても回復力が弱く、ホコリとなって減ってしまいます。丸洗いに対応した生地と、良質な環境で育てられたグースダウンを選ぶことが長く使うコツでしょう。



寝具はそれほど頻繁に買い替えるものではありません
丸洗いに対応した生地を選ぶこと、2回のリフォームに耐えられる質の羽毛を選ぶことが重要ですよ

日本で最高レベルの製造とリフォーム 眠りのプロショップSawadaの羽毛工房

製造から、メンテナンス、リフォームまで一貫して安心のサポートを提供



プレミアムダウンウォッシュ相当 羽毛直洗いの Lorch 社のシステム

寝具店では日本に二軒しかないドイツLorch社の羽毛リフレッシュマシンを設置、さらに羽毛の除塵機やサイクロン式充填機を備えて、5段階によるホコリ取りを徹底して行います。

店主が羽毛の状態を見ながら、多すぎず少なすぎず、使う人にとって最適な厚さの羽毛布団に仕立て上げます。

衿元は厚めなど、身体にフィットする 手作りならではの羽毛の充填方法

顔に近く比較的へたりやすい衿元や身体にあたる部分は厚めに、両サイドはベッドなどにも対応して薄めにするなど、充填量はコンピューターによって細かな調節を行っています。

ご希望に合わせて多めに入れたり、少なくしたり、最適な厚さになるよう、一枚一枚丁寧に仕立てます。



シングル5×6

26	29	32	29	26
24	26	29	26	24
24	26	29	26	24
24	26	29	26	24
24	26	29	26	24
26	29	32	29	26

800 ｸﾞﾗ

シングルサイズ5×6マス中厚仕立てで800g入りの場合の一マスの充填量の表
衿元が最も多く、外側は少なめ。身体の中心部は多めに仕上げる。

羽毛布団リフォームの工程



専門のクリーニングによる 丸洗いサービス

毎日使うモノなので、3～5年に一度の丸洗いをおすすめしています。最もきれいで負荷なく洗うことができる専門水洗いのクリーニングは弊社へお申し込み下さい。

部分足しサービス

長年使っていると、襟元などがどうしても薄くなりがちです。リフォームするにはまだまだだけど、というお客さまには、襟など部分足しサービスを行っています。全体的に足すことも可能です。お買上いただいた羽毛ふとんの場合は、部分足し加工賃は無料です。（羽毛は実費頂戴いたします）